

Ⅶ 令和6年度理工科系大学等への推薦入学等による進学状況調査結果について

公益社団法人 全国工業高等学校長協会 附属工業教育研究所

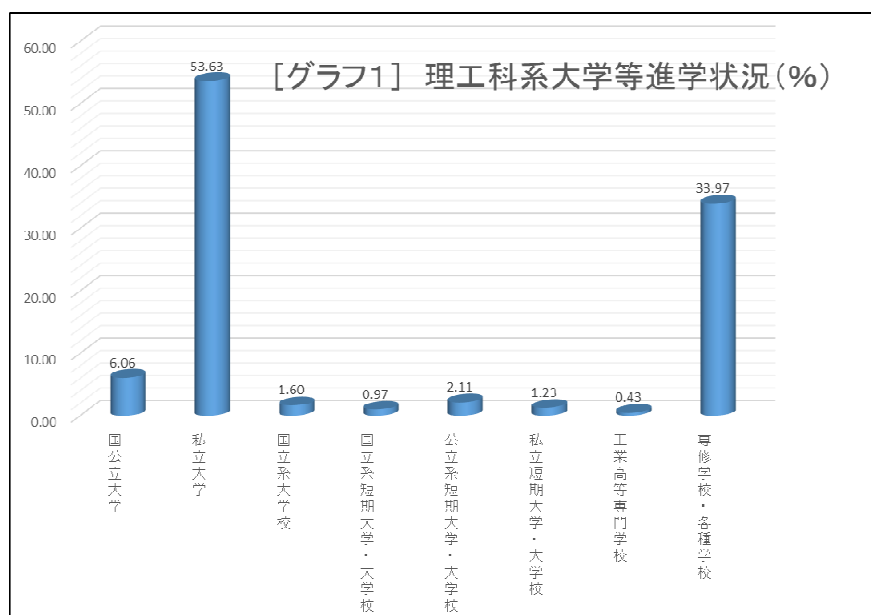
1 調査結果について

令和6年度は、工業系高等学校より理工科系国公立大学へ687人が進学（昨年度684人）している。そのうち、国立大学進学者は53大学480人（昨年度479人）、公立大学進学者は36大学207人（昨年度205人）であり、昨年度と比較すると合格者は国立大学で3人増、公立大学で2人と微増している。一方、不合格者については昨年度より116人減少し、304人（昨年度420人）と年々減少している。国立大学で合格者が多かった大学は、新潟大学の29人を筆頭に、大分大学（27人）、秋田大学（26人）、山形大学（25人）と続き、地方の国立大学が多かった。

理工科系私立大学進学者は200以上の大学に6,084人となり、前年度より354人減少した。また、職業能力開発大学校（全国10地区に11校設置）への進学者は182人（昨年度192人）であった。工業系高等学校から4年次に編入することにより、卒業後4年制大学に編入可能である工業高等専門学校等への進学者は、49人（昨年度47人）で、ほぼ昨年度並みであった。さらに、私立大学附属短期大学部等の理工科系短期大学への進学者は140人（昨年度153人）、全国に12校設置されている職業能力開発短期大学校には110人（昨年度143人）、各都道府県立理工科系短期大学（校）等には239人（昨年度278人）が進学している。

今回の調査を前回の調査と比較検討したところ、今年度も大きな変動はなかったが、会員校生徒数が減少する中、進学者数が11,345人と昨年の11,605人に比べ260人減少した。

[グラフ1]は理工科系大学等への進学状況を示したものである。



2 国公立大学について

例年、工業系高等学校卒業生の4割弱が上級学校に進学しており、進学先である理工科系国公立大学等では、積極的に総合型選抜、専門学科枠推薦等で、工業系高等学校卒業生を受け入れている。国公立大学の学校推薦型選抜等の入試形態には、専門学科枠、総合学科枠、県内枠、地域枠等があり多岐にわたっている。多くの工業系高校生が、さまざまな受験方法を活用して受験にチャレンジしていること、また、国立大学が地元の工業高等学校等と積極的に連携を取りながら活動していることもあり、国公立大学への進学が以前より有利になってきている。さらに、大学側が総合型選抜や専門学科卒業生選抜を

積極的に設けるなど、フレキシブルな入試を実施していることにより、国公立大学を目指す生徒も増えてきている。しかし、今回の調査でも国公立大学受験者のうち、不合格になった生徒は昨年度より減少したものの、まだかなりの数にのぼっており、報告のあった不合格者数は304人（昨年420人）と受験者の約31%を占めている（総受験者数は昨年度に比べ113人減）。

国公立大学に挑戦する意欲ある生徒の合格者を増やすことは、工業高校のイメージアップにもつながると考えられることから、国公立大学の総合型選抜や専門学科卒業生選抜は増加傾向にあることも踏まえ、生徒には入学当初からの確な受験情報を知らせるとともに、学校現場での組織的な学力向上に向けた指導や工業系高等学校で学んできた知識や技術の成果、また、「課題研究」を通じた研究活動の成果をまとめあげ、プレゼンテーション力の育成等を図るなど、生徒への積極的なサポート体制により国公立大学進学への道を開くことが、受験者の増加と不合格者の減少につながっていくのではないかと考える。

3 私立大学等について

今回の調査では、進学者の54.6%が理工科系私立大学に進学しており、200以上の大学に6,084人（昨年6,438人）が進んでいる。理工科系私立大学では、積極的に工業系高等学校卒業生を受け入れており、金沢工業大学の375人を筆頭に、大阪電気通信大学（322人）、愛知工業大学（317人）、日本工業大学（267人）等、15大学にそれぞれ100人以上が進学している。

4 おわりに

令和7年度の入学者選抜から、新学習指導要領に基づいた大学入学共通テストが実施されるなど、最近の4年制大学の入試は多種多様となっているが、三本柱は一般選抜、総合型選抜、学校推薦型選抜といわれている。

〔表1〕は、平成12年度（AO入試実施開始年度）と令和6年度の大学入学者選抜実施状況を比較したものである。この表からは、AO入試の割合が平成12年度では国公立大学を合わせても1.4%であったが、令和6年度には総合型選抜（旧AO入試）の割合が16.1%に増加しており、一般選抜の割合が大きく減少している。

〔表1〕平成12年度と令和6年度の4年制大学入試状況の比較（文部科学省のHPより抜粋）

平成12年度		令和6年度	
AO入試	1.4%(8,117人)	総合型選抜	16.1%(98,520人)
推薦入試	31.7%(188,083人)	学校推薦型選抜	35.0%(214,549人)
一般入試	65.8%(389,851人)	一般選抜	47.5%(291,590人)
その他	1.1%(6,827人)	その他	1.4%(8,794人)
入学者計	592,878人	入学者計	613,453人

（注）その他は、専門学科卒業生選抜、社会人選抜、帰国生徒選抜、その他選抜など

〔表2〕令和6年度の大学入学者選抜実施状況（文部科学省のHPより抜粋）

国立大学		公立大学		私立大学	
総合型選抜	6.1%(5,981人)	総合型選抜	4.5%(1,611人)	総合型選抜	19.0%(90,928人)
学校推薦型選抜	12.4%(12,242人)	学校推薦型選抜	26.0%(9,267人)	学校推薦型選抜	40.3%(193,040人)
一般選抜	81.1%(79,936人)	一般選抜	69.1%(24,667人)	一般選抜	39.0%(186,987人)
その他	0.4%(365人)	その他	0.4%(157人)	その他	1.7%(8,272人)
入学者計	98,524人	入学者計	35,702人	入学者計	479,227人

（注）その他は、専門学科卒業生選抜、社会人選抜、帰国生徒選抜、その他選抜など

〔表2〕は、令和6年度の大学入学者選抜実施状況を、入学者選抜ごとに国立大学、公立大学、私立大学別にまとめたものである。それぞれの入学者については、国立大学では総合型選抜6.1%、学校推薦型選抜12.4%、一般選抜が81.1%、さらに公立大学では総合型選抜4.5%、学校推薦型選抜26.0%、一般

選抜が 69.1%となっており、国公立大学では一般選抜が主であること、また、私立大学においては定員の半数以上を総合型選抜と学校推薦型選抜により入学させていることがわかる。

今回の回答率は 93.3%（昨年 96.6%）であり、多くの会員校のご協力をいただいた。また、大学の入学者選抜制度の過渡期でもあり、会員校の担当者からは入力に関する質問や調査方法、内容に関してさまざまな問合せや情報をいただいたが、調査結果を通して、工業系高等学校からの進学に関する具体的な実情を把握することができた。

なお、〔表 3〕は理工科系大学等への進学状況調査結果、〔表 4〕は理工科系大学推薦別合格者数、〔表 5〕は理工科系大学推薦入試不合格者数、〔表 6〕は国公立大学合格者数である。

また、〔グラフ 2〕から〔グラフ 10〕は、理工科系大学等の合格者数の一部を校種別に示したものであり、〔グラフ 11〕から〔グラフ 13〕は、それぞれ都道府県別、ブロック別、高等学校別の国公立大学合格者数を示したものである。

今後も、この「理工科系大学等への推薦入学等による進学状況調査」を継続し、多くの学校からの資料提供により、正確な情報を全国に発信していく予定である。また、調査方法、調査時期等を含め、調査結果（データ）を有効活用できるように改善し、課題等の解決を目指して努力していく所存である。

〔表 3〕 理工科系大学等への進学状況調査結果(令和7年3月卒業生)(単位:人)

校 種	推薦・男	合格・男	推薦・女	合格・女	推薦・合計	推薦・合格
国立大学	608	409	88	71	696	480
公立大学	226	161	69	46	295	207
私立大学	5,753	5,344	751	740	6,504	6,084
国立系大学校	183	174	8	8	191	182
国立系短期大学校	104	103	7	7	111	110
公立系短期大学・大学校	225	210	31	29	256	239
私立短期大学・大学校	126	126	14	14	140	140
工業高等専門学校	55	45	7	4	62	49
専修学校・各種学校	3,374	3,349	508	503	3,882	3,854
合 計	10,654	9,921	1,483	1,422	12,137	11,345

〔表 4〕 理工科系大学推薦別合格者数(人)

項目別推薦	国立大学	公立大学	私立大学	合 計
総合型選抜(AO入試)	209	76	1,224	1,509
指定校推薦	3	18	3,831	3,852
公募推薦	90	59	424	573
一般推薦	22	13	104	139
スポーツ推薦	2	0	129	131
専門学科枠推薦	143	27	190	360
地域枠推薦	5	8	2	15
その他	6	6	180	192
合 計	480	207	6,084	6,771

〔表 5〕 理工科系大学推薦入試不合格者数(人)

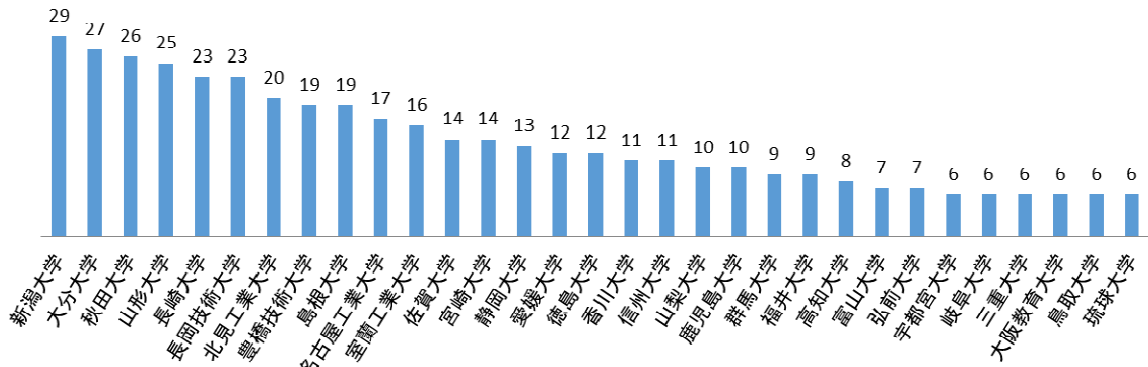
卒業年	国立大学	公立大学	私立大学	合計
令和2年3月卒業生	257	175	811	1,243
令和3年3月卒業生	230	166	687	1,083
令和4年3月卒業生	227	151	499	877
令和5年3月卒業生	244	119	502	865
令和6年3月卒業生	270	150	442	862
令和7年3月卒業生	216	88	420	724

〔表6〕 令和6年度 国公立大学合格者数(人) 【令和7年3月卒業生調査】

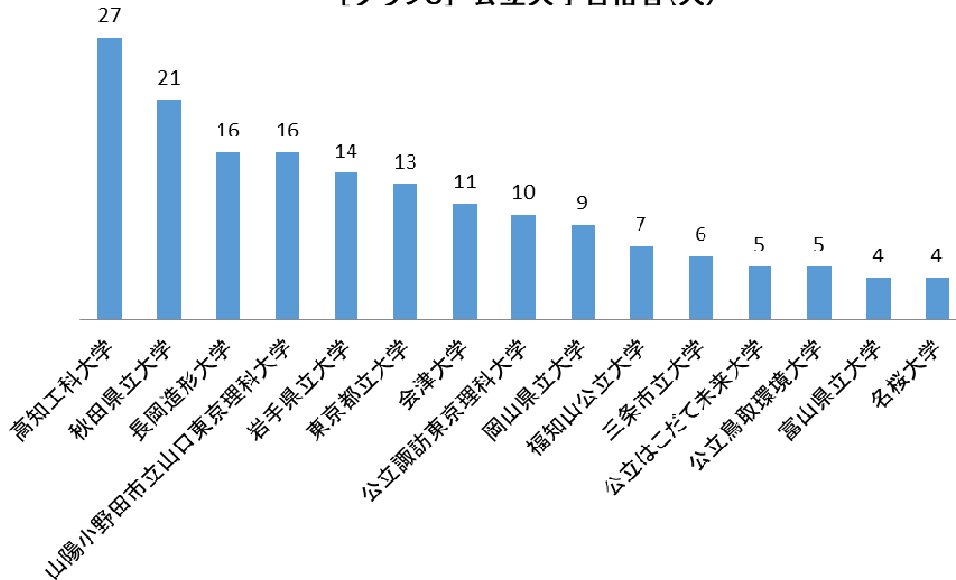
番号	都道府県	国立大学	公立大学	合計	ブロック別計
1	北海道	21	2	23	23 (26)
2	青森県	20	5	25	124 (110)
3	岩手県	4	6	10	
4	宮城県	8	3	11	
5	秋田県	19	21	40	
6	山形県	13	5	18	
7	福島県	11	9	20	
8	茨城県	8	2	10	
9	栃木県	3	3	6	65 (53)
10	群馬県	6	0	6	
11	埼玉県	1	0	1	
12	千葉県	1	0	1	
13	東京都	23	13	36	
14	神奈川県	4	1	5	
15	山梨県	0	0	0	
16	新潟県	34	6	40	82 (90)
17	長野県	11	14	25	
18	富山県	6	6	12	
19	石川県	1	0	1	
20	福井県	3	1	4	
21	静岡県	43	10	53	91 (102)
22	愛知県	28	3	31	
23	岐阜県	1	1	2	
24	三重県	4	1	5	
25	滋賀県	2	0	2	31 (44)
26	京都府	6	5	11	
27	大阪府	5	3	8	
28	兵庫県	6	0	6	
29	奈良県	3	0	3	
30	和歌山県	1	0	1	
31	鳥取県	7	6	13	59 (46)
32	島根県	7	1	8	
33	岡山県	10	9	19	
34	広島県	0	2	2	
35	山口県	0	17	17	
36	徳島県	41	6	47	95 (92)
37	香川県	3	7	10	
38	愛媛県	13	2	15	
39	高知県	6	17	23	
40	福岡県	13	1	14	117 (121)
41	佐賀県	3	0	3	
42	長崎県	18	0	18	
43	熊本県	18	2	20	
44	大分県	7	1	8	
45	宮崎県	23	7	30	
46	鹿児島県	8	1	9	
47	沖縄県	7	8	15	
合計		480 (479)	207 (205)	687 (684)	687 (684)

※()内は、前年同期の状況である。

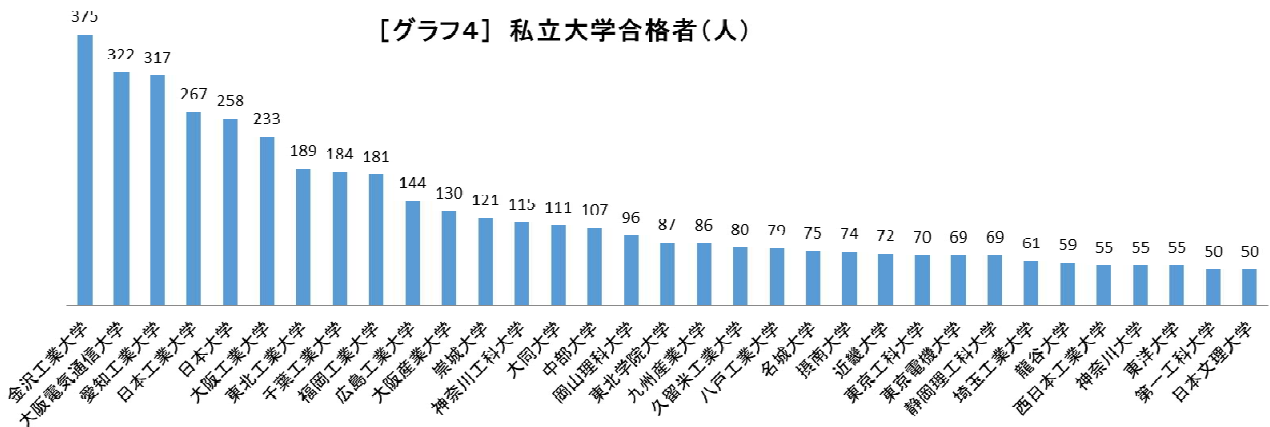
[グラフ2] 国立大学合格者(人)



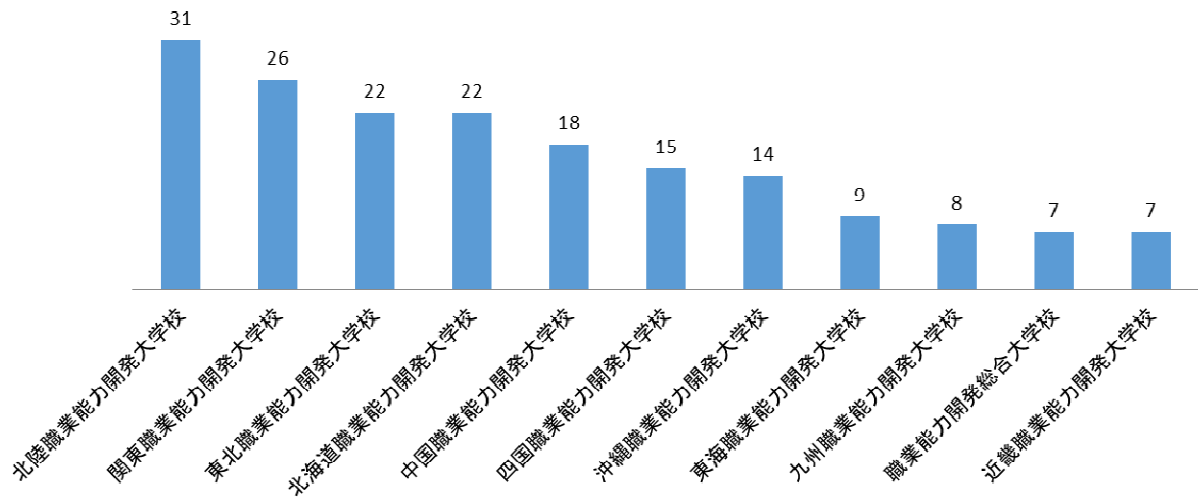
[グラフ3] 公立大学合格者(人)



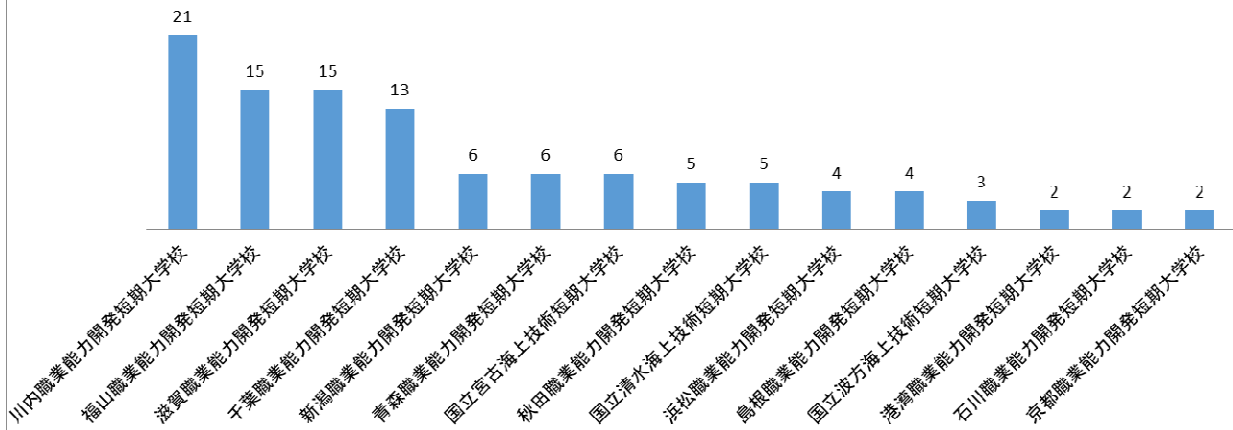
[グラフ4] 私立大学合格者(人)



[グラフ5] 国立系大学校合格者(人)



[グラフ6] 国立系短期大学校合格者(人)



[グラフ7] 公立系短期大学校合格者(人)

